

【全体概要】

愛知県東三河地域のキャベツ産地では、全自動移植機の普及により規模拡大が進み二期作も増えているが、連作による土壌病害など生産不安定のリスクが高まっている。

そこで、キャベツと組み合わせが可能なタマネギ栽培に、この全自動移植機を活用することにより、生産者の機械導入の負担を抑えたうえで、キャベツの生産性を維持しながら、タマネギ産地の発展を図る。

新品種・新技術等の概要

- タマネギ栽培に対応する一条植え全自動移植機
- 200穴セル成形苗を利用



タマネギの株間に対応

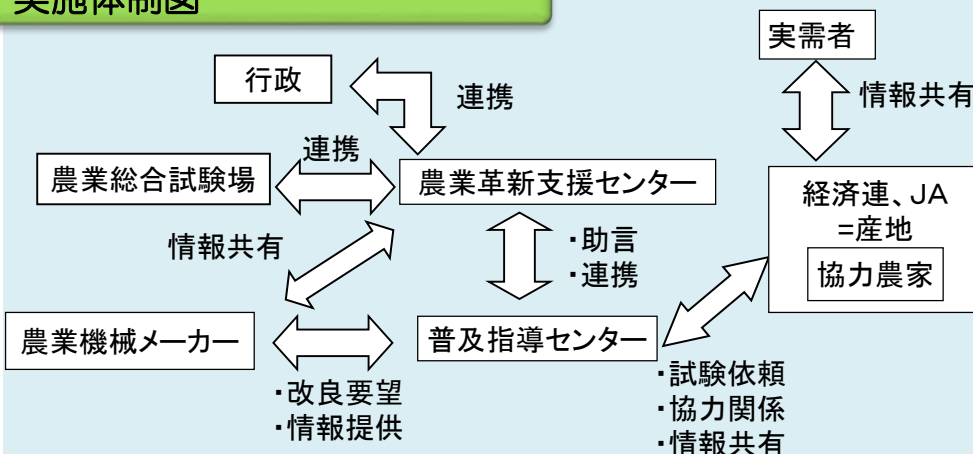


一条植えのタマネギ栽培

主な取組内容

- キャベツに比べて密植が必要なタマネギ栽培に適応するための一条植え全自動移植機の改良。
- タマネギの200穴セル成形苗に適した育苗方法(育苗培土、露地・ハウス育苗)と播種・定植時期の検討。
- キャベツ+タマネギの共通の定植機利用経営体の経営評価。

実施体制図



課題と今後の対応

- 1年目(平成30年度作)
 - ・200穴セル成形苗を育苗し、キャベツ収穫後の2～3月に、改良した1条植え全自動移植機を利用して定植。
 - ・収穫調査を行い、育苗方法の違いが収量に及ぼす影響を検討。
- 2年目(令和元年度作)
 - ・播種・定植時期の違いが収量に及ぼす影響を調査。
 - ・生産技術のマニュアル及び普及に関する手引き書を作成。